

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】

歴史環境デザイン実習 課題

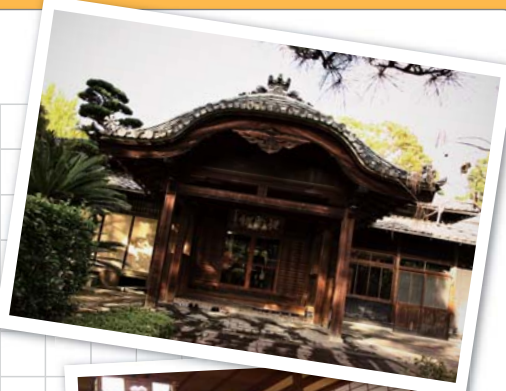
歴史的建造物の再生—中村公園記念館の再生計画提案

都市環境学専攻 西澤泰彦准教授

名古屋市中村区・中村公園内に残る歴史的建造物である中村公園記念館。

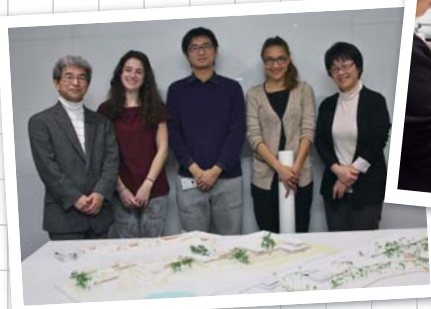
今回の実習は、記念館の建築的特徴を活かしながら、新たに4つの機能— ①展示室など中村区および中村公園の歴史と現状を紹介する機能、②地域住民のための機能、③外部からこの地を訪れた人々のための施設、④施設に共通する機能および公園管理機能、を満たして、複合施設として改修・再生計画を提案するという、実践的なものです。実施にあたり、名古屋市中村土木事務所や伊藤平左エ門建築事務所の協力を得ました。

課題の説明を受けた学生たちは、現地調査にのぞみ、建物や敷地の状況などを把握。5回にわたるエスキスとその途中に行われた中間講評を経て、最終講評で提案を発表します。建築物の価値の把握、周囲の景観への配慮、耐震など防災面の強化、さらに機能に応じたファシリティマネージメントなど、総合的な提案力が問われる課題に、学生たちはおおいに鍛えられています。



▲中村公園記念館(1910年竣工)

地元住民の寄付を受けて愛知県が中村公園内に建てた木造平屋の建物。建物南側正面中央に唐破風の車寄せ玄関を設けた左右対称の正面は、典型的な「近代和風建築」の正面構成であり、内部には書院造の和室が4室(現在は3室)設けられ、名古屋を訪れた賓客の迎賓館として使われた。1923年愛知県から名古屋市に譲渡。現在は閉鎖されているが、名古屋市が耐震化工事を検討中。



▲最終講評の様子

陳遜さん

都市環境学専攻
建築環境・デザイン講座M1



初めて取り組んだ既存建築の再生

今回の歴史環境デザイン実習の課題に対して、既存の敷地に、水平方向の築地塀と垂直方向の屋根や植栽を配しました。北側の競輪場を敷地から視覚的に隠すことをめざしたのです。壁の配置の高さを決定する際に、いろいろスタディ模型を作って検討しましたが、今でも納得していない部分があります。

既存の建築を再生させる課題はこれが初めてで、新しい機能の提案は難しかったですが、課題の途中でお茶会に参加するなど、普段体験できないようなこともあって、いい経験ができたと思います。